

## JLC 2019 年新年会 + 第 71 回研究発表会

1月19日 銀座ライオン渋谷マークシティ店

### 新年のごあいさつ



#### 代表 豊田 一男

皆さま、あけましておめでとうございます。  
今年もよろしくお願いたします。

宮本先生から「代表」の座を引き継ぐことになりました。荷が重いという気がいたしますが、皆さまに助けていただいて、何とか務めを果たしていくつもりです。ご協力をお願いする次第です。

さて、この「英語のジョークを楽しむ会」も発足して10年以上経ちました。2007年3月31日(土)に「横浜時事英語クラブ(YOKOHAMA CURRENT ENGLISH CLUB)」の<sup>ひきし</sup>庇をお借りする形でスタートしました。この会場をお借りできたのは宮本先生がこのクラブの責任者だった藤村雄伍氏と旧知の間柄で、氏に「宣伝

の機会を与えてくれ」と依頼され、快諾を得たお蔭でした。宮本先生、「横浜時事英語クラブ」の常連の一人で、長く我々の会の総務を担当していただいた、亡くなられた植田良明氏、佐川光徳氏、浦<sup>きよほろ</sup>聖治氏、それに小生の5名で今後この会をどのように運営していくかを話し合ったと思います。宮本先生は月に一度の開催を望まれておられましたが、佐川氏と小生が、他の組織の運営の経験に基づいて、<sup>ふたつき</sup>二月に一度でないと無理、と申し上げて現在の形になっています。

例会の会場は現在の駒場の「日本近代文学館」ではなく、もうこの会をお辞めになった浦聖治氏の地下鉄「麴町」駅に近いクオリティ株

式会社の会議室をお借りしておりました。このオフィスは貸事務所の一角でしたので、総務の植田氏が例会の前日の金曜日に小田急江ノ島線「善行」からわざわざ出向いて、直接、オフィスの予備のキーを受け取り、終了後の次の月曜日に、再び返却に赴かれるという、大変なご苦勞をなさっていただきました。感謝の言葉ありません。

このオフィスを運営されていた浦氏がこの会とどう関わっていただいたかもお話する必要がありますと思います。浦氏は宮本先生と同じ和歌山県のご出身で、先生の後輩に当たる方で、先生が以前からお知り合いだったことから、まず氏に会に加入していただき、会社のオフィスを「無料で」貸していただくことになったのです。浦氏は和歌山県出身者、和歌山県に縁のあるメンバーで構成されている「紀友会」の幹事長をされ、和歌山県の名士という方でした。現在も和歌山で活躍されています。

浦氏が和歌山県の白浜に本拠地を移されてから、2012年11月17日（土）以降現在の会場になっています。この会場を「発見」したのは、佐川氏がかつて文学関係の文献調べで何年も近代文学館に通われていたことから、ネットで検索すると会議室が使えることが分かり、使用料は1回1万円ですが、年間事前予約が可能になり、安心して使えるようになったのです。

話が前後しますが、小生がこの会に入るきっかけは、大学以来の友人佐川氏に、こんな会を考えているが参加する気はないかと誘われ、まさに「待ってました！」という気持ちで発足に

加わった次第です。

この度、ここにおられる多くの方々、最近お出でになられていない方々から「ジョーク・コンテスト」に提出いただいたジョークを基にこの『楽しく英語が身につくジョーク集 ビジネス・日常で使えるジョーク218』（ごきげんビジネス出版）が出来上がりました。この本の出版のきっかけを作っていただき、宮本先生とともに総括の仕事をされた村井久美子氏には感謝の言葉ありません。この本の編集段階には小生も加わりましたが、特に最終段階の出版元との面倒極まりない交渉は、安藤氏、佐川氏にすべてをお任せしてしまいました。深く御礼申し上げます。また、この新年会だけでなく、様々にお助けいただいている中嶋秀隆氏への感謝も忘れてはならないと思っています。

しかし、何よりもお礼申し上げるべきは、この会に足を運んでいただいている会員の方々に対してです。この会は2011年3月11日（金）の東日本大震災のために、一度だけ開催できなかったことはありましたが、毎回休むことなく続けてこられたのも会員の皆様のお蔭だと思っております。この会が、今後とも出席するのが楽しい、待ち遠しい会になるよう努力したいと思っております。皆様のご協力をお願いして、新年のご挨拶といたします。

なお、愛知県岡崎市から出席されている小澤正樹氏に運営委員をお引き受けいただきました。ありがたいことだと思っております。ご清聴ありがとうございました。

\* \* \* \* \*